

## (提案1)

○委員の決定（追加2件）

(東日本大震災復興支援委員会 福島復興支援分科会)

氏名	所属・職名	備考
岩本 康志	東京大学大学院経済学研究科教授	第一部会員
山川 充夫	福島大学学長特別補佐	第一部会員
内田 伸子	筑波大学監事	連携会員
瀬戸 暁一	財団法人脳神経疾患研究所附属口腔がん治療センター長・顎顔面インプラント再建研究所長	連携会員
千葉 悦子	福島大学行政政策学類教授	連携会員
横張 真	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授	連携会員

(東日本大震災復興支援委員会 エネルギー供給問題検討分科会)

氏名	所属・職名	備考
北澤 宏一	独立行政法人科学技術振興機構顧問	連携会員
渡邊 信	筑波大学大学院生命環境科学研究科教授	連携会員

分野別委員会運営要綱(平成23年9月1日日本学術会議第133回幹事会決定)の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後					改正前					
別表第1					別表第1					
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
農学委員会	(略)	(略)	(略)		農学委員会	(略)	(略)	(略)		
	農学委員会・食料科学委員会合同PSA分科会	食料科学学委員会に記載	食料科学委員会に記載			農学委員会PSA分科会	太平洋学術協会(PSA)への対応に関すること	15名以内の会員又は連携会員		
食料科学委員会	(略)	(略)	(略)		食料科学委員会	(略)	(略)	(略)		
	農学委員会・食料科学委員会合同PSA分科会	太平洋学術協会(PSA)への対応に関すること	15名以内の会員又は連携会員			(親委員会の追加及び窓口委員会の変更)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IMEKO分科会	国際計測連合(IMEKO)の活動を国内外に広報及び活動支援について	10名以内の会員又は連携会員			総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IMEKO分科会	国際計測連合(IMEKO)の活動を国内外に広報及び活動支援について	10名以内の会員又は連携会員		
	総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IMEKO分科会IMEKO世界大会招致小委員会	・IMEKO2021世界大会の日本招致決定に向けた準備活動に関する事項 ・その他、IMEKO2021世界大会招致に係わる事項	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者			(新規設置)				
	総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IMEKO分科会計測連合シンポジウム企画運営小委員会	・計測連合シンポジウムの開催のための企画立案 ・計測連合シンポジウムの運営 ・その他、計測連合シンポジウムに係わる事項	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者			(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
総合工学委員会サービス学分科会	サービスに関する学術的体系の審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員		(新規設置)						
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	

(提案2)

電気電子工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IMEKO分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	
	総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IMEKO分科会IMEKO世界大会招致小委員会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	
	総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IMEKO分科会計測連合シンポジウム企画運営小委員会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	
	(略)	(略)	(略)	(略)
土木工学・建築学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	土木工学・建築学委員会IRDR分科会	1. 国際IRDR活動への参加・推進 2. 国内のIRDR活動の推進 3. 海外、特にアジア太平洋地域の国や地域、機関とのIRDR活動の連携・推進に係る審議に関すること	25名以内の会員又は連携会員	
	土木工学・建築学委員会IRDR分科会政策検討小委員会	・IRDRに関わる政策・施策の現況分析と今後の方向性 ・IRDRに対する関係省庁、行政機関、研究機関、NPO等の関与の方向性 に係る審議に関すること	20名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	設置期間: 平成24年7月27日～平成26年9月30日
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IMEKO分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	
	(新規設置)			
	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)
土木工学・建築学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	土木工学・建築学委員会IRDR分科会	1. 国際IRDR活動への参加・推進 2. 国内のIRDR活動の推進 3. 海外、特にアジア太平洋地域の国や地域、機関とのIRDR活動の連携・推進に係る審議に関すること	25名以内の会員又は連携会員	
	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附則

この決定は、決定の日から施行する。

農学委員会・食料科学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：PSA 分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、 主体となる委員会に○印を付ける。)	農学委員会 ○食料科学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	PSA (Pacific Science Association : 太平洋学術協会) はアジア・太平洋沿岸諸国を中心に設置された学術団体で、当該地域の科学・技術問題、特に人々の繁栄と幸福に寄与する課題の研究を協力して提案・推進し、全ての研究者の絆を強めることを目的としている。PSA 分科会は PSA の日本組織として活動を行うために設置されている。
4	審議事項	太平洋学術協会 (PSA) への対応に関すること
5	設置期間	時限設置 平成 年 月 日～ 年 月 日 <input type="checkbox"/> 常設
6	備考	※親委員会の追加及び窓口委員会の変更 現在、PSA では太平洋域の海洋生物を生態系に負荷を与えないで食料としていかに持続的に利用するのが大きな課題となっている。PSA 分科会に参加している委員は食料科学委員会の下にある水産学分科会委員が主体となって活動をしているため、PSA 分科会の親委員会に食料科学委員会を追加し、主たる委員会を食料科学委員会に変更する。

総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IMEKO 分科会小委員会の設置について

分科会等名：~~IMEKO 世界大会招致小委員会~~

1	所属委員会名 (複数の場合は、 主体となる委員 会に○印を付け る。)	○総合工学委員会 電気電子工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	計測に関する科学技術の発展を推進する国際学術連合である International Measurement Confederation (IMEKO : 国際計測連合)が、3年に一度開催する IMEKO 世界大会を 2021 年に、日本に招致することに向けた様々な準備活動を具体的に推進することを目的とする。 そのために、2015 年の IMEKO 理事会での 2021 年 IMEKO 世界大会の主権国決定にむけた、コンセプト作成、具体案作成など周到な準備活動を行うことを目標とする。
4	審議事項	・2012 年 9 月韓国釜山市で開催される IMEKO 理事会および関連役員会での、日本での世界大会開催の意思表示のための細部にかかわる準備活動に関する事項。 ・2015 年チェコ共和国プラハ市で開催される、IMEKO 理事会における IMEKO2021 世界大会の日本招致決定に向けた準備活動に関する事項。 ・その他、IMEKO2021 世界大会招致に係わる事項。
5	設置期間	<span style="border: 1px solid black;">時限設置</span> 平成 24 年 7 月 27 日～26 年 9 月 30 日 常設
6	備考	※新規設置 設置期間に関しては、第 23 期にも引き続き設置を希望する(～平成 27 年 9 月 30 日まで)

総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IMEKO 分科会小委員会の設置について

分科会等名： 計測連合シンポジウム企画運営小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、 主体となる委員会に○印を付ける。)	○総合工学委員会 電気電子工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	IMEKO 分科会の設立趣旨の一つである「計測学が関係する広範囲な学術団体および学術分野の研究者との連携を図り、計測学に関する学術研究および教育の推進、産業界における計測技術の発展を目的として活動する」にのっとり、横断的な学術である、計測標準、計測手法、計測システム、センサー、センシングに関する先端的な研究成果を集めた「計測連合シンポジウム」の恒常的な開催を行うことを目的とする。
4	審議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測連合シンポジウムの開催ための企画立案。</li> <li>・計測連合シンポジウムの運営</li> <li>・その他、計測連合シンポジウムに係わる事項。</li> </ul>
5	設置期間	時限設置 平成 年 月 日～ 年 月 日 <input type="checkbox"/> 常設
6	備考	<p>※新規設置</p> <p>日本学術会議計測工学研究連絡委員会主催の「計測連合シンポジウム」が、1990年(第1回)から2005年(第16回)まで開催されていたが、日本学術会議の改組の後、休止していた。</p>

総合工学委員会分科会の設置について

分科会等名：サービス学分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、 主体となる委員会に○印を付ける。)	総合工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>第3次産業は現在、雇用・GDPともに日本経済の約7割を占める重要産業である。その中心であるサービスについては科学的工学的手法の導入が進行しつつあり、また、特定の分野については教育組織が急速に増加している。しかしながら、サービス分野は経済学、社会学、工学など多数の学術分野が関連するために、サービスに関する学術的取り組みはまだ手探り状態と言わざるを得ない。</p> <p>日本の持続的な経済成長のためには、サービスに関する学術的取り組みの方向性を日本学術会議として社会に対して明示していく必要がある、サービスの学術体系の在り方について議論するために、本分科会を設置する。</p>
4	審議事項	サービスに関する学術的体系の審議に関するすること
5	設置期間	<p>時限設置 年 月 日～ 年 月 日</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 常設</p>
6	備考	<p>※新規設置</p> <p>本分科会は第一部から第三部までのすべての会員・連携会員の参画を求めるが、世話人が第3部機械工学委員会・総合工学委員会に所属しているため、総合工学委員会に設置する。</p>

土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会政策検討小委員会の設置について

分科会等名：政策検討小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	土木工学・建築学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携科会員以外の者
3	設置目的	<p>土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会は、ICSU (国際科学会議) において研究計画として国際展開されている IRDR (災害リスク統合研究) の日本国内組織である IRDR-Japan を第 21 期に設置された土木工学・建築学委員会学祭連携分科会 IRDR 小委員会から引き継ぎ、IRDR の展開を図っている。</p> <p>IRDR-Japan の活動は、学問分野にとどまらず、行政等の実務機関も含んで展開する必要がある。このため、IRDR 分科会に政策検討小委員会を設置し、IRDR に関わる関係省庁、行政機関、研究機関、NPO 等からの委員を加える。</p> <p>小委員会では災害リスク統合管理に対する政策・施策の現状を整理分析し、IRDR-Japan の IRDR の国際展開への貢献に関する事項を検討する。</p>
4	審議事項	<p>1. IRDR に関わる政策・施策の現況分析と今後の方向性</p> <p>2. IRDR に対する関係省庁、行政機関、研究機関、NPO 等の関与の方向性</p>
5	設置期間	<p><b>時限設置</b>：平成 24 年 7 月 27 日～平成 26 年 9 月 30 日</p> <p>常設</p>
6	備考	※新規設置

【委員会及び分科会】

○委員の決定（新規1件）

（ 総合工学委員会 サービス学分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
新井 民夫	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
石田 亨	京都大学大学院情報学研究科教授	第三部会員
橋本 和仁	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
藤本 隆宏	東京大学大学院経済学研究科教授	第一部会員
上田 完次	独立行政法人産業技術総合研究所理事	連携会員
圓川 隆夫	東京工業大学 教授・イノベーションマネジメント研究科長	連携会員
國井 秀子	リコーITソリューションズ株式会社 取締役会長執行役員	連携会員
須藤 修	東京大学大学院情報学環教授	連携会員
高安 秀樹	(株) ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー	連携会員
椿 広計	情報・システム研究機構統計数理研究所副所長・リスク解析戦略研究センター長・教授	連携会員
土居 範久	中央大学理工学部教授	連携会員
中島 秀之	公立はこだて未来大学学長	連携会員
野城 智也	東京大学生産技術研究所教授	連携会員

○委員の決定（追加8件）

（ 社会学委員会 ジェンダー研究分科会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
藤垣 裕子	東京大学大学院総合文化研究科教授	連携会員

（ 地域研究委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
羽場 久美子	青山学院大学大学院国際政治経済学研究科教授・総合研究所プロジェクト研究代表	第一部会員

( 地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
山川 充夫	福島大学学長特別補佐	第一部会員
高阪 宏行	日本大学文理学部教授	連携会員
杉本 良男	人間文化研究機構国立民族学博物館民族社会研究部教授	連携会員
田中 和子	京都大学大学院文学研究科教授	連携会員
松本 淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科地理環境科学域教授	連携会員
村山 祐二	筑波大学大学院生命環境科学研究科教授	連携会員
吉田 容子	奈良女子大学文学部准教授	連携会員

( 農学委員会・食料科学委員会合同 PSA 分科会 )

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
野口 伸	北海道大学大学院農学研究院教授	第二部会員

( 歯学委員会 )

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
佐々木啓一	東北大学大学院歯学研究科長、教授	連携会員

( 健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会 )

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小林 良彰	慶應義塾大学法学部 客員教授	第一部会員

( 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会 )

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
木村 忠正	独立行政法人科学技術振興機構プログラムオフィサー	連携会員

( 土木工学・建築学委員会 IRDR分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
今村 文彦	東北大学大学院工学研究科教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（新規2件）

※取り下げ

~~（総合工学委員会・電気電子工学委員会 I M E K O 分科会 I M E K O 世界大会招致小委員会）~~

氏名	所属・職名	備考
福田 敏男	名古屋大学大学院工学研究科教授	第三部会員
舘 暉	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授	連携会員
石川 正俊	東京大学大学院情報理工学系研究科教授	連携会員

（総合工学委員会・電気電子工学委員会 I M E K O 分科会計測連合シンポジウム企画運営小委員会）

氏名	所属・職名	備考
石川 正俊	東京大学大学院情報理工学系研究科教授	連携会員
金子 真	大阪大学大学院工学研究科教授	連携会員
水野 毅	埼玉大学大学院理工学研究科教授	連携会員

○委員の決定（追加2件）

（地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会地質地盤情報小委員会）

氏名	所属・職名	備考
浅岡 顕	公益財団法人地震予知総合研究振興会副首席主任研究員	連携会員
沖村 孝	神戸大学名誉教授	連携会員

（総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会計算力学小委員会）

氏名	所属・職名	備考
吉村 忍	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員

国際委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄の掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後				改正前			
別表1				別表1			
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
PSA分科会	太平洋学術協会（PSA）への対応に関する こと	分野別委員会運営要綱において定める。	農学委員会・ 食料科学委員会 合同PSA 分科会と兼ね る	PSA分科会	太平洋学術協会（PSA）への対応に関する こと	分野別委員会運営要綱において定める。	農学委員会P SA分科会と 兼ねる
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則 この決定は、決定の日から施行する。

(提案3)

高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会設置要綱（平成23年11月16日日本学術会議第140回幹事会決定）の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後	改正前
(略) 第3 (略)  (設置期限) 第4 委員会は、 <u>平成24年11月30日まで置かれるものとする。</u>  第5 (略)	(略) 第3 (略)  (設置期限) 第4 委員会は、 <u>平成24年7月31日まで置かれるものとする。</u>  第5 (略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

大学教育の分野別質保証推進委員会設置要綱（平成23年6月23日日本学術会議第127回幹事会決定）の一部を次のように改正する。  
次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後				改正前			
(略) 第4 (略)				(略) 第4 (略)			
(分科会) 第5 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。				(分科会) 第5 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。			
分科会	調査審議事項	構成	設置期限	分科会	調査審議事項	構成	設置期限
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学分野の参照基準検討分科会	機械工学分野における教育課程編成上の参照基準の検討に関すること	20名以内の会員又は連携会員	平成25年3月31日	機械工学分野の参照基準検討分科会	機械工学分野における教育課程編成上の参照基準の検討に関すること	20名以内の会員又は連携会員	平成25年3月31日
<u>土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会</u>	<u>土木工学・建築学分野における教育課程編成上の参照基準の検討に関すること</u>	<u>20名以内の会員又は連携会員</u>	<u>平成25年7月31日</u>	(新規設置)			
(略) 第6 (略)				(略) 第6 (略)			

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

(提案5)

大学教育の分野別質保証推進委員会分科会の設置について

分科会等名： 土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	大学教育の分野別質保証推進委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>当該委員会がその審議課題を継承する大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会が平成22年7月22日に取りまとめ、同年8月17日に文科省に手交した、「回答 大学教育の分野別質保証の在り方について」において、学士課程教育の分野別の質保証のために、各分野の教育課程編成上の参照基準を策定すべきことを述べた。</p> <p>このことを受けて、土木工学・建築学分野における教育課程編成上の参照基準を検討するため、本分科会を設置するものである。</p>
4	審議事項	土木工学・建築学分野における教育課程編成上の参照基準の検討
5	設置期間	平成24年7月27日 ～ 平成25年7月31日
6	備考	

○ 委員の決定（新規1件）

（大学教育の分野別質保証推進委員会 土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
嘉門 雅史	香川高等専門学校校長	第三部会員
小松 利光	九州大学大学院工学研究院教授	第三部会員
花木 啓祐	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
吉野 博	東北大学名誉教授	第三部会員
依田 照彦	早稲田大学理工学術院創造理工学部教授	第三部会員
朝倉 康夫	東京工業大学大学院理工学研究科教授	連携会員
高田 光雄	京都大学大学院工学研究科教授	連携会員
芳村 学	首都大学東京都市環境学部教授	連携会員

「日本学術会議の意思の表出における取扱要領」（平成18年6月22日日本学術会議第18回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

次表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後	改正前
<p>1 日本学術会議の意思の表出に係る様式及び作成付属資料 (略)</p> <p>2 <u>エビデンスの記載及び提出</u> <u>意思の表出を行う際のエビデンス（科学的根拠や論拠）を示すため、元のデータ及び資料（元のデータ若しくは資料を作成した者が加工したものを含む。）の出所を、本文中の図表、参考文献欄又は注釈に記載するとともに、個々のデータ及び資料（図に関しては復元可能なようにプロットデータ、計算式等も含む。）は、あらかじめ幹事会に提案する前に、公開に関する取扱いの情報を付して、事務局に提出することとする（参考資料として添付する場合はこの限りではない。）。</u>この際、事務局における確認作業において、本文中の記載の修正の必要が判明した場合には、作成者が必要な修正を施すこととする。</p> <p>3 インパクト・レポートの作成 (略)</p>	<p>1 日本学術会議の意思の表出に係る様式及び作成付属資料 (略)</p> <p><u>(新規)</u></p> <p>2 インパクト・レポートの作成 (略)</p>

(提案7)

改正後	改正前																																																																																																																													
<p>別紙様式 1</p> <p style="text-align: center;"><b>日本学術会議〇〇委員会△△分科会</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">(氏名)</th> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">(職名)</th> <th style="width: 45%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委員長</td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(第〇部会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>副委員長</td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(第〇部会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>幹事</td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(連携会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(第〇部会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(連携会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(特任連携会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(第〇部会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>本件の作成に当たっては、以下の職員が事務を担当した。</u></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">(氏名)</th> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">(職名)</th> <th style="width: 45%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事務局</td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>参事官</td> <td>(〇〇担当)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(又は〇〇課長)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>参事官</td> <td>(〇〇担当) 付参事官補佐</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(又は〇〇課課長補佐)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>参事官</td> <td>(〇〇担当) 付専門職</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(又は〇〇課〇〇係長)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>参事官</td> <td>(〇〇担当) 付専門職付</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(又は〇〇課〇〇係)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		(氏名)		(職名)		委員長	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	副委員長	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	幹事	〇〇 〇〇	(連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		〇〇 〇〇	(連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		〇〇 〇〇	(特任連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		(氏名)		(職名)		事務局	〇〇 〇〇	参事官	(〇〇担当)					(又は〇〇課長)			〇〇 〇〇	参事官	(〇〇担当) 付参事官補佐					(又は〇〇課課長補佐)			〇〇 〇〇	参事官	(〇〇担当) 付専門職					(又は〇〇課〇〇係長)			〇〇 〇〇	参事官	(〇〇担当) 付専門職付					(又は〇〇課〇〇係)		<p>別紙様式 1</p> <p style="text-align: center;"><b>日本学術会議〇〇委員会△△分科会</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">(氏名)</th> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">(職名)</th> <th style="width: 45%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委員長</td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(第〇部会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>副委員長</td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(第〇部会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td>幹事</td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(連携会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(第〇部会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(連携会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(特任連携会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> <tr> <td></td> <td>〇〇 〇〇</td> <td>(第〇部会員)</td> <td></td> <td>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(新規)</u></p>		(氏名)		(職名)		委員長	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	副委員長	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	幹事	〇〇 〇〇	(連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		〇〇 〇〇	(連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		〇〇 〇〇	(特任連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
	(氏名)		(職名)																																																																																																																											
委員長	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
副委員長	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
幹事	〇〇 〇〇	(連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	〇〇 〇〇	(連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	〇〇 〇〇	(特任連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	(氏名)		(職名)																																																																																																																											
事務局	〇〇 〇〇	参事官	(〇〇担当)																																																																																																																											
			(又は〇〇課長)																																																																																																																											
	〇〇 〇〇	参事官	(〇〇担当) 付参事官補佐																																																																																																																											
			(又は〇〇課課長補佐)																																																																																																																											
	〇〇 〇〇	参事官	(〇〇担当) 付専門職																																																																																																																											
			(又は〇〇課〇〇係長)																																																																																																																											
	〇〇 〇〇	参事官	(〇〇担当) 付専門職付																																																																																																																											
			(又は〇〇課〇〇係)																																																																																																																											
	(氏名)		(職名)																																																																																																																											
委員長	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
副委員長	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
幹事	〇〇 〇〇	(連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	〇〇 〇〇	(連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	〇〇 〇〇	(特任連携会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										
	〇〇 〇〇	(第〇部会員)		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇																																																																																																																										

附 則

この決定は、平成24年9月1日から施行する。

(提案8)

○平成24年度代表派遣について実施計画の一部変更

会議名称	会期	開催地(国)	派遣人員	変更内容	変更理由
第20回アジア社会科学 研究協議会連盟総会・大会	2013年1月16日～1 月19日	セブ(フィリピン)	2	平成24年度計 画から削除	会期が2013年4月4日～4月6日 に変更になったため、平成24 年度の計画から削除し、平成 25年度の推薦募集時に該当委 員会から再び申請を行うこと にする。
国際微生物学連合社会還 元活動及び理事会	(旧) 2012年10月2 日～10月9日  ↓  (新) 2012年12月 15日～12月18日	デリー(インド)  ↓  カトマンズ(ネパー ル)	1	会期及び開催 地の変更	主催者の都合のため

平成24年度代表派遣実施計画に基づく10-12月期の会議派遣候補者

別添

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	哲学系諸学会国際連合運営委員会	10月15日	6日	コトヌー	佐々木 健一 連携会員 日本大学文理学部教授	哲学委員会 第3区分
		～ 10月20日		ベナン		
2	第1回IHPSTアジア地域会議	10月18日	3日	ソウル	村上 祐子 特任連携会員 東北大学准教授	IUHPS分科会 第3区分
		～ 10月20日		韓国		
3	2012年度 海洋研究科学委員会 (SCOR)総会	10月21日	4日	ハリファックス	池田 元美 特任連携会員 北海道大学名誉教授	SCOR分科会 第1区分
		～ 10月24日		カナダ		
4	2012年度 海洋研究科学委員会 (SCOR)総会	10月21日	4日	ハリファックス	蒲生 俊敬 連携会員 東京大学大気海洋研究所教授	SCOR分科会 第1区分
		～ 10月24日		カナダ		
5	科学技術データ委員会第23回国際 会議・第28回総会	10月27日	7日	台北	長島 昭 特任連携会員 中部大学中部高等学術研究所客員教授	CODATA分科会 第1区分
		～ 11月2日		台湾		
6	国際人類民族科学連合中間会議 2012	11月26日	5日	ブヴァネーシュヴァル	小泉 潤二 連携会員 大阪大学大学院人間科学研究科教授	地域研究委員会 第3区分
		～ 11月30日		インド		
7	国際微生物学連合社会還元活動及 び理事会	12月15日	4日	カトマンズ	富田 房男 特任連携会員 放送大学	IUMS分科会 第2区分
		～ 12月18日		ネパール		
8	第5回国際地下水会議	12月18日	4日	オーランガバード	柴崎 直明 特任連携会員 福島大学共生システム理工学類教授	IUGS分科会 第3区分
		～ 12月21日		インド		

## The Kavli Prize Week 2012 について

- 1 開催地 ノルウェー・オスロ
- 2 開催期間 平成 24 年 9 月 3 日～9 月 6 日
- 3 派遣予定者 春日文字子 (副会長)
- 4 開催趣旨 カヴリ賞 (The Kavli Prize) は、天体物理学、神経科学、ナノ科学の 3 分野における優れた科学研究に対して贈られる国際科学賞であり、ノルウェー系米国人フレッド・カヴリの提唱により、カヴリ財団とノルウェー教育研究省、およびノルウェー科学人文アカデミーの共同事業として設立された。科学者個人の業績を讃えると同時に、人類の未来のために重要な研究の成果を正しく評価することを目標としている。一方で、研究者間の国際協力を推進するとともに、研究の大切さを広く訴えることを目指している。同賞の授与は 2008 年から開始され、隔年で行われる。第 1 回の受賞者の内、ナノ科学部門で飯島澄男名城大学教授 (日本学術会議 第 20 期～21 期連携会員) が日本人受賞者となった。受賞賞金は各部門に 100 万米ドルである。第 3 回目となる本年は、2010 年の第 2 回目に引き続き「The Kavli Prize Week 2012」という、賞の対象部門に関連するシンポジウム、科学フォーラム、受賞式、受賞者による記念講演会を含める一連のイベントが行われる。科学フォーラムでは、黒川清東京大学名誉教授 (日本学術会議第 19 期・20 期会長) がパネリストの 1 人として登壇する。(別添参照)。

別添



The Kavli Prize   Laureates   Committees   Nominations   The Kavli Prize Week

## THE KAVLI PRIZE WEEK 2012

### Monday, September 3

0930 – 1400: **The Kavli Prize Laureate Lectures** at the University of Oslo, Blindern Campus

1530 – 1800: **The Kavli Prize Science Forum** on Science and Global Health. Gamle festsal, Oslo

*Opening address:*

**Mr. Jens Stoltenberg**, Prime Minister of Norway

*Panelists:*

**Dr. Rita Colwell**, former Director, U.S. National Science Foundation, Professor, University of Maryland, US

**Dr. Alice Dautry**, President, Institut Pasteur, France

**Dr. Haile Debas**, Director, Senior Global Health Advisor, Global Health Sciences, UCSF

**Dr. Harvey V. Fineberg**, M.D., President, Institute of Medicine, U.S. National Academy, US

**Dr. Kiyoshi Kurokawa**, M.D., former Chair, Science Council of Japan. Chairman, Health and Global Policy Institute of Japan, and Professor Emeritus of Medicine, University of Tokyo, Japan

*Moderator:*

**Pallab Ghosh**, UK

### Tuesday, September 4

1400 – 1530: **The Kavli Prize Award Ceremony** at Oslo Concert Hall

1900 – 0000: **The Kavli Prize Award Banquet** at Oslo City Hall

### Wednesday, September 5

1000 – 1300: **The Kavli Prize Popular Science Lectures**  
The University Aula, Karl Johansgate, Oslo

**Event registration**

You may register for the event [online here](#)



0940 - 1030: **Lisa Randall**, Harvard University, US  
 1035 - 1125: **May-Britt Moser**, NTNU, Norway  
 1130 - 1230: **Nathan Myhrvold**, Intellectual Ventures, US  
 1230 - 1330: **René Redzepi**, NOMA and **Lars Williams**, Nordic Food Lab

### **Thursday, September 6**

1000 – 1600: **The Kavli Prize Symposia in Nanoscience and Neuroscience**  
 University of Bergen

*Nanoscience:*

**Leo Kouwenhoven**, TU Delft, The Netherlands  
**Roeland Nolte**, University Nijmegen, The Netherlands  
**Geoffrey A. Ozin**, University of Toronto, Canada  
**Serge Haroche**, Collège de France, France

*Neuroscience:*

**Marcus E. Raichle**, Washington University, US  
**Chiara Cirelli**, University of Wisconsin, US - "*Sleep and Synaptic Homeostasis*"  
**Michael Meaney**, A\*STAR, Singapore & McGill University, Montreal, Canada -  
 "*Epigenetic Regulation of Brain Development and Function*"  
**Michael E. Greenberg**, Harvard University, US - "*Neuronal Activity-Dependent  
 Signaling: Networks that Regulate Synapse Development and Cognitive Function*"  
**Erin M. Schuman**, Max Planck Institute for Brain Research, Frankfurt aM,  
 Germany - "*Local Control at Synapses*"

1000 – 1600: **The Kavli Prize Symposia in Nanoscience and Neuroscience**  
 Trondheim, NTNU:

*Nanoscience:*

**Jochen Mannhart**, University of Augsburg, Germany  
**Carlos Bustamante**, UC Berkeley, US  
**Milena Grifoni**, University of Regensburg, Germany  
**Seeram Ramakrishna**, National University of Singapore, Singapore

*Neuroscience:*

**Hopi Hoekstra**, Harvard University, US - "*Digging for genes that contribute to  
 behavioral evolution in mammals*"  
**Catherine Dulac**, Harvard University US - "*Sex battles in the brain*"

1000-1600: **The Kavli Prize Symposia in Astrophysics**  
 Oslo, The Norwegian Academy of Science and Letters

**Juri Toomre**, University of Colorado at Boulder, US - "*Touching the inside of a  
 convecting star and its magnetic dynamo*"  
**Francois Forget**, CNRS at Institut Pierre Simon Laplace, France - "*Planet Mars  
 through time*"  
**Natalie Batalha**, NASA Ames Research Center, US - "*Finding the Next Earth*"  
**Ewine van Dishoeck**, Leiden Observatory, The Netherlands - "*Water in space:  
 from clouds to planets*"  
**Robert Williams**, Space Telescope Science Institute, US - "*The Scientific Legacy of  
 Hubble Space Telescope*"  
**Scott Dodelson**, University of Chicago, US - "*The Dark Sector vs. Modified  
 Gravity*"

第6回ネパール国家科学技術会議  
(The Sixth National Conference on Science and Technology(Nepal))  
について

- 1 開催地           ネパール・カトマンズ
- 2 開催期間       平成24年9月25日～27日
- 3 派遣予定者     白田佳子（第一部会員・国際委員会アジア学術会議分科会委員長）
- 4 開催趣旨       本会議は、あらゆる領域に携わる科学者や技術者による意見交換及び研究成果の共有を目的とし、ネパール科学技術アカデミー（Nepal Academy of Science and Technology）が4年毎に開催している会議であり、今回は、科学技術とイノベーションを通じた経済成長（Economic Growth through Science, Technology and Innovation）をテーマに開催することとなっている。

本件は、本年5月、アジア学術会議（SCA）事務局長である白田アジア学術会議分科会委員長が、未加盟国であるネパールのアジア学術会議（SCA）加盟に向けた調整を行っている中で、本年7月のSCAボゴール会合の開催（ネパール他の新規加盟申請を承認する場）を前に、SCA事務局あてに、代表者の出席及び講演依頼があったもので、当該依頼に対し、SCAの戦略的活動も踏まえ、国際委員会で審議した結果、白田アジア学術会議分科会委員長を派遣することが適当であるとしたもの。

なお、本会議は当初6月6日～8日に開催する予定であったが、直前に開催延期の連絡があり、幹事会提案を保留していたところ、改めて9月開催の連絡があったことから、今回、提案するもの。

持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2012 の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：平成 25 年 1 月 17 日（木）～18 日（金）

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

日本学術会議は、本年の「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」のテーマを「災害復興とリスク対応のための知」とした。災害復興とリスク対応について稔り多い議論を行うためには、東日本大震災をめぐるさらに深い洞察とともに、国際的な視野、すなわち諸外国との知見の交流が重要であり、歴史的な視野、すなわち過去の経験に学ぶ姿勢が大切である。自然科学・人文科学・社会科学をつなぐ科学的なコミュニケーションが有益であることも言うまでもない。これらの見地を考慮して、本年の会議を「巨大自然災害の社会経済的影響」「巨大自然災害におけるフードシステムと公衆衛生に関する諸問題と解決策」「巨大自然災害からの復興と持続可能な社会に向けた文化的景観の創造」の3セッションで構成する。

5. 次 第：

## 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2012(案)

テーマ	「災害復興とリスク対応のための知」
-----	-------------------

### 【第1日】

年月日	時間	プログラム
2013年 1/17 (木)	9:30	【開会挨拶】 大西 隆 日本学術会議会長・会議全体議長
	10:00	【基調講演】 「日本学術会議の国際活動の歩み10年」 〈全体趣旨説明・基調講演者紹介〉 生源寺 真一副議長  基調講演 I 黒川 清 政策研究大学院大学教授  基調講演 II Mohamed H.A. Hassan, IAP Co-Chair
	12:30	ランチ
	14:00	【セッション1】 「巨大自然災害の社会経済的影響」 〈共同議長〉 岩本 康志 東京大学大学院経済学研究科教授 津谷 典子 慶應義塾大学経済学部教授  〈講演者〉 ハワード・クンロイター : ペンシルベニア大学教授  塩路 悦朗: 一橋大学大学院経済学研究科教授  岡崎 哲二: 東京大学大学院経済学研究科教授  森田 朗: 学習院大学法学部教授
	17:00	
	17:30	【レセプション】

【第2日】

年月日	時間	プログラム
2013年 1/18 (金)	9:30	<p>【セッション2】 「巨大自然災害におけるフードシステムと公衆衛生に関する諸問題と解決策」</p> <p>〈共同議長〉 野口 伸 北海道大学大学院農学研究院教授 吉川 泰弘 千葉科学大学副学長、危機管理学部教授</p> <p>〈講演者〉 渡部 終五:北里大学海洋生命科学部応用生物化学講座資源化学研究室教授</p> <p>山下 俊一:福島県立医科大学・副学長</p> <p>新山 陽子:京都大学大学院農学研究科教授</p> <p>デディ・ファルディアズ:ボゴール農科大学教授</p> <p>ミッシェル・ハム:ミシガン大学教授</p>
	12:30	ランチ
	14:00	<p>【セッション3】 「巨大自然災害からの復興と持続可能な社会に向けた文化的景観の創造」</p> <p>〈共同議長〉 石川 幹子 東京大学大学院工学系研究科教授 和田 章 東京工業大学名誉教授</p> <p>〈講演者〉 中島 正愛:京都大学防災研究所 所長・教授</p> <p>中井 検裕:東京工業大学大学院社会理工学研究科教授</p> <p>ピーター・ヤネフ:ヤネフ アソシエイト代表</p> <p>クリスティーナ・キャストル・ブランコ:リスボン科学技術研究所教授</p> <p>赤坂 憲雄:学習院大学文学部日本語日本文学科教授</p> <p>石川 幹子:東京大学大学院工学系研究科教授</p>
	17:00	<p>【総括・討論】</p> <p>大西 隆 議長 生源寺 真一 副議長</p>
	18:00 18:30	<p>【閉会挨拶】 春日 文子 日本学術会議副会長</p>

公開シンポジウム「震災からの再生－社会学と計画学との対話／復興に向けて、何をどう考えるべきなのか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会東日本大震災の被害構造と再建の道を探る分科会
2. 共 催：日本社会学会、環境社会学会、都市社会学会、地域社会学会
3. 後 援：該当なし
4. 日 時：平成24年7月29日（日）13：30～16：30
5. 場 所：東北大学 川内南キャンパス 文科系中講義棟 経済学部第3講義室  
（宮城県仙台市青葉区川内）
6. 分科会の開催：該当なし

7. 開催趣旨：

東日本大震災の発災以来、多数の社会学研究者が被災地現地での調査を継続しており、被災地各地の実情や、原発避難民のおかれた状況について把握に努めてきた。それを通して得られた知見を総括すると共に、今後長期的に問われるべき課題である防災と地域再生に取り組むにあたり、重視するべきと思われる視点、論点を中心に理論的な検討と意見交換を深める。その際、自然災害一般の中で東日本大震災の特異性はどのような点にあるのか、「想定外」というキーワードを防災政策の中でどのように位置づけていくのか、科学的知見の限界をどのように自覚しそのことを防災対策にどのように生かして行くべきか、地域再生のための本来のあるべき計画とはどのようなものか、復興や除染やライフコースの再構築という点で時間軸をどのように設定するべきなのか、期限設定を伴う行政施策に対して人々の人生の時間という視点からの見直しが必要ではないか、現在の補償の仕組みと被害者の被害実態のずれはどのようなものか、などの論点を掘り下げていきたい。

8. 次 第：

開会あいさつ：山下祐介（日本学術会議特任連携会員、首都大学東京都市教養学部准教授）

I 報 告（13：40 ～15：10）

- 1) 田中重好（名古屋大学大学院環境学研究科教授）  
「津波被災地と防災、地域社会」
- 2) 船橋晴俊（日本学術会議連携会員、法政大学社会学部教授、日本社会学会研究活動委員長）  
「原発震災とエネルギー政策－補償から地域再生へ」
- 3) 北原啓司（弘前大学大学院地域社会研究科教授、都市計画学会復興部会長）

「都市計画の視点から震災復興を考える」

Ⅱ 討論 (15:20 ~16:30)

司会担当 正村俊之 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院文学研究科教授)

岩井紀子 (日本学術会議連携会員、大阪商業大学総合経営学部教授)

討論者 黒田由彦 (名古屋大学大学院環境学研究科教授、地域社会学会研究委員長)

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

市民公開講座「サーモン・かふえ 2012」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会水産学分科会、「サーモン・かふえ」実行委員会
2. 後 援：北海道大学大学院水産科学研究院，岩手県，東京大学大気海洋研究所，岩手大学三陸復興推進本部
3. 日 時：平成 24 年 9 月 3 日（月） 13：30～18：00
4. 場 所：グリーンピア三陸みやこ  
〒027-0373 岩手県宮古市田老向新田 148  
<http://www.greenpia-sanrikumiyako.com/index.php>

5. 開催趣旨：

現在，東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波により三陸の沿岸生態系が受けた各種の直接的・間接的影響をできるだけ早く具体的に明らかにすることを目標に「東北マリンサイエンス拠点形成事業」が行なわれている。本事業の一環として，東北地方におけるサケ資源の回復と持続可能な利用並びにサケ増殖体制の確立が目的にあげられている。日本学術会議と「サーモン・かふえ」実行委員会はその目的に則し，現地にて科学的知見に基づく科学者－行政－利害関係者による「サーモン・かふえ」を開催し，大震災からの一日でも早い復興の支援に資する。

6. 次 第：

開会挨拶；木暮一啓（東京大学大気海洋研究所副所長，教授，東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）副代表機関代表研究者）

〈講演〉

「健康なベビーを育てるために－放流用稚魚の健苗性と飼育環境－」（30 分）

水野伸也（地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部 さけます・内水面水産試験場 内水面資源部内水面研究グループ研究主任）

「三陸の海を空から見ると－東北沿岸WebGIS」（30 分）

齊藤誠一（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院水産科学研究院教授）

「怖いけど、来年の来遊予測」（30 分）

清水勇一（岩手県水産技術センター主任専門研究員）

（パネル・ディスカッション）

「Dr.サーモンに何でも聞いてみようコーナー」（120 分）

梶山雅秀(日本学術会議連携会員、北海道大学大学院水産科学研究院教授)

〈ポスター発表〉

「何が分かった今年の調査」(60分)

- ・サケによる陸域生態系への物質輸送メカニズム

    越野陽介 (北海道大学大学院水産科学院博士課程2年)

- ・沿岸域におけるサケ幼魚の栄養動態

    秦 玉雪 (北海道大学大学院水産科学院博士課程1年)

- ・沿岸域におけるサケ幼魚の分布, 成長および摂餌動態

    瓜生大輔 (北海道大学大学院水産科学院修士課程1年)

閉会挨拶:山内皓平(日本学術会議連携会員、愛媛大学南予水産研究センター長、岩手大学三陸復興推進本部客員教授)

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

公開シンポジウム「自然史標本 -人類共通の財産-」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然史標本の文化財化分科会、公益法人日本動物学会
2. 日 時：平成 24 年 9 月 14 日（金） 12：30 ～ 14：30
3. 場 所： 大阪大学会館  
(〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-13)
4. 分科会の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

本年9月に開催される日本動物学会大阪大会では、公益法人日本動物学会・日本学術会議自然史標本の文化財化分科会の主催による、「自然史標本 - 人類共通の財産」と題する公開シンポジウムを開催する。本シンポジウムでは、自然史標本が人類共通のかけがえのない財産であるという共通認識に基づき、特に、動物学研究とのかかわり、重要性について、3人の講演者が話題提供を行う。まず、中国科学院古脊椎動物古人類研究所科学院のXing Xu教授は、長年にわたる恐竜の化石の発掘調査から明らかになってきた鳥類の起源に関する最近の研究進展について話される。Xu教授は本年4月に、中国遼寧省で約1億2千万年前（白亜紀前期）の地層から全身が羽毛に覆われた大型肉食恐竜ティラノサウルスの化石を発見し注目された（X. Xu et al., Nature 484: 92-95）。次いで、中坊京大教授は大正時代からの京大所蔵標本が山梨県西湖でのクニマス再発見の発端になったことを述べ、大学で過去に研究された標本を保存することの重要性を強調される。また、馬渡北大名誉教授（日本学術会議・「自然史標本の文化財化分科会」委員長）は自然史標本を文化財と同じく、公的に保全する方法およびそのための法令を制定することの必要性に言及される。なお、3人の話題提供の後、時間が許す限り自然史標本の評価、保存の手立てについて総合討論を行う。なお、このシンポジウムには、「自然史標本の文化財化分科会」の委員も出席し、総合討論では意見を述べる予定である。

6. 次 第：

開会の挨拶 及び 司会：

長濱嘉孝（日本学術会議連携会員、愛媛大学社会連携推進機構教授）

講演 1：「鳥類の起源に関する研究の最近の進展」

徐 星 Xing Xu (中国科学院古脊椎動物古人類研究所科学院教授)

講演2 : 「クニマス - 過去からの生還」

中坊 徹次 (京都大学総合博物館教授)

講演3 : 「自然史標本は国の宝である」

馬渡 駿介 (日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)

総合討論

司会 : 長濱嘉孝 (日本学術会議連携会員、愛媛大学社会連携推進機構教授)

7. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

日本学術会議北海道地区講演会「食の安全とレギュラトリーサイエンス」の開催について

(1) 主催 日本学術会議北海道地区会議、帯広畜産大学

(2) 日時 平成 24 年 9 月 28 日(金) 14:00～17:00

(3) 場所 帯広畜産大学講義棟 5 番講義室

(4) 概要 (テーマ)  
「食の安全とレギュラトリーサイエンス」

(5) 次第

14:00～14:05 開会の挨拶及びテーマ説明

長澤 秀行(日本学術会議連携会員、帯広畜産大学学長)

14:05～14:10 挨拶

日本学術会議会長 or 副会長

14:10～15:10 講演「(演題未定)」

新山 陽子(日本学術会議連携会員、京都大学大学院農  
学研究科教授)

15:10～15:45 講演「(演題未定)」

倉園 久生(帯広畜産大学 副学長・教授)

15:45～15:55 (休憩)

15:55～16:55 パネルディスカッション

[パネリスト]

野口 伸(日本学術会議会員、日本学術会議北海道地区会議  
代表幹事、北海道大学大学院農学研究院教授)

新山 陽子(日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研  
究科教授)

倉園 久生(帯広畜産大学副学長・教授)

[コーディネーター]

金山 紀久(帯広畜産大学理事・副学長)

16:55～17:00 閉会の挨拶

野口 伸(日本学術会議会員、日本学術会議北海道地区会議  
代表幹事、北海道大学大学院農学研究院教授)

※講演会后、「科学者との懇談会」の開催を予定。

シンポジウム「いま改めて二つの大震災から学ぶー阪神淡路大震災・東日本大震災と地理学・変動地形学ー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、日本地理学会理事会
2. 開催日時：平成24年10月6日（土）13：00～17：00
3. 場 所：神戸大学
4. 分科会の開催：なし

5. 開催趣旨：

阪神淡路大震災と東日本大震災は、稀にしか起こらないがひとたび起きると大きな被害を招く「低頻度巨大災害」として共通点が多く、ともに「想定外」と評された。こうした災害へ対応するには、近視眼的ではなく、長期的・広域的な視点が重要である。変動地形学をはじめとして地理学は、低頻度巨大災害に関する多くの「知」を有し、また防災教育に貢献する使命を持っている。今後の防災・減災や社会のあり方について今一度考察する。

6. 次 第：

- 13：00－13：05 趣旨説明 鈴木康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）
- 13：05－13：45 島崎邦彦（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授）  
「大震災が「想定外」に至る分岐点」
- 13：45－14：05 鈴木康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）  
「阪神淡路大震災と神戸の活断層」
- 14：05－14：25 寒川 旭（産業技術総合研究所）：予定  
「歴史と地層が語る神戸周辺の地震とその被害」

<休憩>

- 14：40－15：00 岡田篤正（立命館大学教授）  
「近畿圏の活断層と土地利用の問題」
- 15：00－15：20 未定  
「土地条件と地震災害」
- 15：20－15：40 渡辺満久（東洋大学教授）  
「原発安全審査における変動地形学の重要性」

- 15 : 40－16 : 00 中田 高 (広島大学名誉教授)  
「海溝型巨大地震と海底活断層」
- 16 : 00－16 : 20 未定  
「復興を考えるための地理学的視点」
- 16 : 20－17 : 00 総合討論 熊木洋太 (日本学術会議連携会員、専修大学文学部教授)

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

公開シンポジウム「東日本大震災からの農林水産業と地域社会の復興」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会地域総合農学分科会，日本農学会
2. 共 催：日本農学アカデミー、(財) 農学会
3. 日 時：平成 24 年 10 月 13 日 (土) 10:00～17:00
4. 場 所：東京大学弥生講堂  
〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
5. 開催趣旨：

日本における観測史上最大規模の地震による東日本大震災は、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に甚大な被害をもたらした。その被害は建造物やインフラだけではなく、農林水産業の現場や農山・漁村等の地域社会へも大きく波及した。震災から約 1 年半が経過し、被災地における復興が進みつつある。また、改めて、震災がもたらした農林水産業ならびにこれらを含む社会基盤に与えた被害の状況や復興における問題も明らかになりつつある。震災による被害やその後の産業・地域の状況について、農林水産業と地域社会の両面から被害・復興状況について紹介するとともに、政策面も含めて今後に向けた取り組みについて講演し、農学の取り組み・可能性・使命について広く一般社会に提言する。

6. 次 第：

開会挨拶・趣旨説明 (10:00-10:10)

大熊 幹章 (東京大学名誉教授)

**第 1 部 東日本大震災からの農林水産業の復興**

① 「農地における塩害の概況と修復」(10:10-10:45)

南條正巳 (日本学術会議特任連携会員、東北大学大学院農学研究科教授)

② 「畜産業の復興と放射線汚染」(10:45-11:20)

眞鍋 昇 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

③ 「水産業における震災からの復興 (仮)」(11:20-11:55)

八木信行 (東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻)

④ 「津波被災農地の復旧と雑草問題」(11:55-12:30)

小笠原 勝（宇都宮大学雑草科学研究センター植生マネジメント部門教授）

**第2部 東日本大震災からの地域社会の復興**

⑤ 「(未定)」(13:30-14:05)

西郷正道（農林水産省農林水産技術会議研究総務官）

⑥ 「震災復興を担う木造建築における地域材の活用の意義と可能性」

(14:05-14:40)

板垣直行（秋田県立大学システム科学技術学部准教授）

⑦ 「津波被災地のコミュニティ再生の現状と課題」(14:40-15:15)

広田純一（岩手大学農学部共生環境課程教授）

**第3部 総合討論**

⑦ 総合討論 (15:25-16:25)

磯貝 彰（奈良先端科学技術大学院大学学長）

閉会挨拶

三輪 睿太郎（日本学術会議連携会員、東京農業大学総合研究所教授）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

歴史教育シンポジウム「現代への視点と世界史像の再構築」の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会、日本歴史学協会
2. 日 時 平成 24 年 10 月 20 日 (土) 13 時 30 分～17 時 30 分
3. 場 所 学習院大学北 2 号館 10 階会議室
4. 委員会等の開催 開催予定 なし
5. 開催趣旨

近年、世界史関係の啓蒙書の出版があいつぐなど、「世界史ブーム」が到来しているとされる。これは経済・社会・政治が大きな転換を迎えつつあることが実感される中、日本や世界のこれからのゆくすえを見定めたいという人々の思いと無関係ではないであろう。世界史像の模索は、現代という時代をどう捉え、どのような未来を構想するかという問題と密接につながっている。

本シンポジウムでは、これまでの日歴協における取り組みの蓄積を踏まえつつ、現代日本における世界史像の再構築をめぐる課題をさまざまな角度から検討していく。近現代の日本が歩んできた道とその中で歴史学が果たしてきた役割を振り返る時、過去を反省し、未来に開かれた世界史像を構築するために不可欠なのは、アジアへの視点だと考えられる。歴史意識の形成にあたって歴史教育が果たす役割の検証も重要である。また、世界史像の構築をめざす作業のさらにゆたかな発展をめざすにあたっては、「グローバル・ヒストリー」や「新しい世界史」をめぐる近年のさまざまな取り組みの成果を検証し、そこから大いに学ぶことが重要である。

## 6. 次 第

開会挨拶 (13:30～13:35)

木村茂光 (日本学術会議会員、帝京大学文学部教授)

趣旨説明 (13:35～13:50)

栗田 伸子 (日本歴史学協会歴史教育特別委員会委員長)

報 告 (13:50～16:00)

水島 司 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)

「グローバル・ヒストリーについて (仮)」

近藤一成 (早稲田大学文学学術院教授)

「大学入試と世界史 (仮)」

糟谷憲一（一橋大学社会学研究科教授）

「世界史教科書の中に朝鮮史は反映されているか（仮）」

江里 晃（実践女子学園高等学校教諭）

「20世紀の中国をどう教えたか（仮）」

討 論（16:10～17:20）

閉会挨拶（17:20～17:30）

高埜利彦（日本学術会議連携会員、学習院大学文学部教授、日本歴史学協会  
会長）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

公開シンポジウム「福島原発事故による放射線被ばく—今後の対策と健康管理」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会、日本学術会議環境学委員会環境リスク分科会、
2. 共 催：日本公衆衛生学会、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会
3. 日 時：平成 24 年 10 月 25 日（木） 13：00～15：00
4. 場 所：山口県山口市中央 2-5-1  
山口市民会館
5. 分科会の開催：開催

6. 開催趣旨：

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、東北地方太平洋沖におけるモーメントマグニチュード 9.0 という人類の記録上 4 番目の大きな地震、その 30 分から 6 時間後にわたる 7 波の津波、津波等によって全電源が喪失して引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所事故による複合災害であった。

2011 年 3 月 18 日に第 21 期の日本学術会議は、緊急集会を開催し、3 月 23 日には東日本大震災対策委員会を設置するとともに、同委員会の下に「放射線の健康への影響と防護分科会」などを設置した。各部および分野別委員会でも調査審議が進められ、東日本大震災対策委員会と協力して、原子力発電所事故に伴う放射線被ばくから子どもを守るための方策等を提言した。6 月には「放射線防護の対策を正しく理解するために」（会長談話）を発表し、さらに、公開のシンポジウムを開催するなど、市民、研究者に向けた発信を行った。

今回の大震災と原発事故は、原子力政策、原子力にかかわる学問分野、防災科学の分野にかぎらず、これまでの日本の学術の歩み全体の自己検証を迫るものであり、今後の復興・復旧に向けて様々な学問分野の成果を生かす取り組みが求められている。

学術会議は、放射能対策の新たな一步を踏み出すために以下の提案を行った。

- ① 国民の健康影響を減らすために：被ばく線量の継続的推定ならびに甲状腺超音波検査・血液検査及び適切で迅速な治療が可能な地域医療体制の整備、住民帰還後にわたる除染目標の設定と除染作業の管理、適切な疫学的研究の結果を住民の健康管理に速やかに反映
- ② 放射線被害の現状と今後についての評価及び健康影響のより正確な推定のために：領域横断的研究体制を政府と学術界の協働により構築、データの迅速かつ着実な

収集の仕組み及び研究者が利用・分析可能な様式でデータを提供する仕組みの確立、  
様々な測定結果・推定結果に必要な不確かさ情報（精度管理あるいは改善にとっても）  
③ 射能対策に係る今後の検討課題：放出・拡散・被ばく・健康影響にかかわる  
モデリング、データ同化技術の向上、放射線健康影響評価に関わる学術的根拠の補強、  
予防原則に基づく初期の対策・基準設定から中長期的な学術的根拠と費用対効果分析  
に基づく対策・基準設定への移行、学術界による社会とのリスクコミュニケーション  
のあり方

以上、学術会議の活動・提言を紹介したが、本シンポジウムでは、放射性物質による環境  
汚染、住民・作業員の健康管理の分野の専門家から、福島原発事故による放射能汚染と放  
射線被ばくの状況をお話いただくとともに、リスクに対する現状認識とその防護の考え  
方をご提示いただき、その上で、議論を行う。

## 7. 次 第：

13:05 放射性物質による環境汚染と被ばく経路

森口祐一（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院工学系研究科都市工学専  
攻教授）

13:30 福島県における県民健康管理調査の概要

安村誠司（日本学術会議連携会員、福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座教授）

13:55 東京電力福島第一原子力発電所サイト内作業員の放射線防護と健康管理

櫻田尚樹（国立保健医療科学院生活環境研究部長）

14:20 放射線の健康リスクに対する現状認識とその防護の考え方

甲斐倫明（大分県立看護科学大学看護学部人間科学講座教授）

14:45 総合討論

（司会）

那須民江（日本学術会議会員、中部大学生命健康科学部客員教授）

秋葉澄伯（日本学術会議連携会員、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科疫学・  
予防医学教授）

15:00 閉会

## 8. 関係部の承認の有無：第二部承認、第三部承認

第1回 材料工学委員会シンポジウム「温故知新」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 材料工学委員会
2. 共 催： 該当なし
3. 後 援： 該当なし
4. 日 時： 平成24年10月27日（土） 13：30 ～ 18：00
5. 場 所： 日本学術会議講堂
6. 分科会の開催： 材料工学委員会・材料工学将来展開分科会合同会議

7. 開催趣旨：

過去40年の先端材料をテーマとした技術の展開を振り返り、材料の進歩・進化が実際に日本の応用面で反映されていないこと、その原因はどこにあるのか、教育や人材の育成を含め探り、今後の指針を得るために開催する。主に、材料工学の「温故知新」「人材育成」「材料工学の広がり」と新たな視点」の三題のテーマに沿ったシンポジウムを予定しており、今回、「温故知新」を題材に斯界の第一人者より学術専門分野における研究をご紹介頂き議論する。

8. 次 第：

- 13：30 - 13：40 開会の辞 材料工学委員会委員長  
前田正史（日本学術会議会員、東京大学理事・副学長）
- 13：40 - 14：30 「金属材料 - Structure：構造制御と材料機能 - 」  
増本 健（公益財団法人電磁材料研究所理事長）
- 14：30 - 15：20 「セラミックス - Property：物性制御と機能発現 - 」  
北澤宏一（日本学術会議連携会員、独立行政法人科学技術  
振興機構顧問）
- 15：40 - 16：30 「材料強度 - Performance：診断予測と材料評価 - 」  
岸 輝雄（日本学術会議連携会員、独立行政法人物質・  
材料研究機構名誉顧問）

16 : 30 - 17 : 20 「電気化学冶金 - Processing: 環境エネルギーと素材産業-」  
増子 昇 (東京大学名誉教授)

17 : 20 - 17 : 50 総合討論

17 : 50 - 18 : 00 閉会の辞 材料工学委員会副委員長  
中嶋英雄 (日本学術会議会員、若狭湾エネルギー研究  
センター所長)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

「福島原発事故による放射能汚染と森林・木材」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会林学分科会、森林・木材・環境アカデミー
2. 共 催：日本農学アカデミー、(社) 日本森林学会、(社) 日本木材学会、(財) 林学会
3. 日 時：平成 24 年 11 月 7 日 (水) 13:00～17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

東京電力福島第 1 原子力発電所の事故から放出された放射性物質は、福島から北関東の山間部に広く拡散し、地域の森林、林業、木材関連産業に大きな影響を及ぼしている。事故から一年半が経過し、大学や研究機関により森林生態系や木材、林産物への影響の調査が進み、実態が把握されつつあり、同時に生活圏への除染等の対応が進められている。

一方、放射性セシウム 137 の半減期は 30 年と長いため、長期的な取り組みの検討が必要である。とくに森林は広大な面積を占め、その除染には莫大な経費がかかるので、生活圏の除染に比べて優先順位が低いのが、今後流域を含め長期的な対策が必要となる。本シンポジウムは緊急に求められる対策やその長期展望について最近の科学的知見をもとに、多角的な視点から議論する。

7. 次 第：

主催者挨拶：

鈴木和夫（森林総合研究所長、森林・木材・環境アカデミー会長）

講演

「福島県の森林放射性セシウム汚染の実態と長期モニタリング（仮）」

高橋正通（森林総合研究所研究コーディネーター）

「森林および土壌の放射能汚染と移行の実態（仮）」

恩田裕一（日本学術会議特任連携会員、筑波大学大学院生命環境科学研究科教授）

「チェルノブイリに学ぶ長期生態系影響」

吉田 聡（放射線医学総合研究所 福島復興支援本部環境動態・影響プロジェクトリーダー）

「木材への放射線セシウム移行と安全な木製品利用」

外崎真理雄（森林総合研究所四国支所長）

「森林の除染と林業活動」

中村道人（林野庁技術開発推進室長）

「今後の森林管理と林業の課題（仮）」

丹下 健（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

パネル討論会

コーディネータ

川井秀一（日本学術会議第二部会員、京都大学生存圏研究所教授）

閉会挨拶 川井秀一（日本学術会議第二部会員、京都大学生存圏研究所教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

「情報学による未来社会のデザインシンポジウム（第一回）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会、独立行政法人科学技術振興機構（JST）
2. 後 援：一般社団法人情報処理学会（検討中）、一般社団法人電子情報通信学会（検討中）、社団法人人工知能学会（検討中）
3. 日 時：平成24年11月8日（木） 10：00～17：00
4. 場 所：学術総合センター 一橋講堂  
（〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）
5. 分科会の開催：有
6. 開催趣旨：情報学には、社会システムのデザインを実現していくツールや規範としての役割が大いに期待されている。  
今後に向けた新たな研究課題や開発の流れ・うねりを創出するために、JST CREST、さきがけの情報学関係のプログラムと連携し、3年間に渡り様々な分野の参加者を募り討論を行う。今回は、その初回にあたり、「大量データに基づく未来社会のデザイン」をテーマとして実施する。
7. 次 第：  
開会挨拶：石田 亨（日本学術会議第三部会員・環境知能分科会委員長、京都大学大学院情報学研究科教授）  
基調講演：中島秀之（日本学術会議連携会員・環境知能分科会副委員長、公立はこだて未来大学学長）  
招待講演：三宅なほみ（日本学術会議連携会員・環境知能分科会委員、東京大学大学院教育学研究科教授）  
研究発表：相澤清晴（日本学術会議連携会員・環境知能分科会幹事、東京大学大学院情報学環・工学部教授）  
パネルディスカッション：中島秀之（日本学術会議連携会員・環境知能分科会副委員長、公立はこだて未来大学学長）、石田亨（日本学術会議第三部会員・環境知能分科会委員長、京都大学大学院情報学研究科教授）、三宅なほみ（日本学術会議連携会員・環境知能分科会委員、東京大学大学院教育学研究科教授）
8. 関係部の承認の有無：第三部承認

日本学術会議主催学術フォーラム「ICT を生かした社会デザインと人材育成」

1 主催 日本学術会議

2 日時 平成 24 年 11 月 16 日 (金) 13:30～17:10

3 場所 日本学術会議講堂

4 開催趣旨

世界的にも類のないブロードバンドやスマートフォンなどの ICT インフラが日本には存在するが、その有効な活用や新しい成長産業の送出行われていない。また、新たなサービスが生み出すプライバシーやセキュリティ、情報漏洩などのこれまでの枠ではとらえられない社会的な問題も生まれている。ICT による新たなイノベーション創出のためには幅広い分野の知恵を集めた新しい法や社会規範などの社会デザインが必要である。このフォーラムでは ICT にまつわる新たな社会デザインのあり方と人材育成について議論を行なう。

5 次第

13:30 開会挨拶

尾家祐二 (日本学術会議第三部会員、九州工業大学理事・副学長)

13:40 基調講演

岡村久道 (弁護士)

14:40 パネル討論「クラウド時代の法制度とイノベーション、人材育成」

・コーディネーター

下條真司 (日本学術会議連携会員、大阪大学サイバーメディアセンター教授)

・パネリスト

山口英 (奈良先端科学技術大学院大学 教授)

江崎浩 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授)

林紘一郎 (情報セキュリティ大学院大学 副学長・教授)

岡村久道 (弁護士)

17:00 閉会挨拶

西尾章治郎 (日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授)

6 分科会の開催 開催予定

日本学術会議主催学術フォーラム「東日本大災害がもたらした食糧問題を考える」

1 主 催 日本学術会議

2 日 時 平成 24 年 11 月 21 日 (水) 13:30～17:30

3 場 所 日本学術会議講堂

#### 4. 開催趣旨

平成 23 年 3 月 11 日に東北太平洋沖で発生した大地震は巨大津波の襲来をもたらした。沿岸地域の農林水産業を一瞬のうちに破壊した。

また、巨大津波の直撃を受けて漏洩した東京電力福島第一原子力発電所の放射能は、農林水産業に対して広域にわたって長期的に多大の影響をもたらすことが危惧されている。このような背景の下、農林水産業においては安全な食料の早急な供給回復が求められている。さらに、長期的視野に立つ食料の安全対策も重要な課題となっている。

そこで、食料科学の立場から現状をわかりやすく説明するフォーラムを開催する。

#### 5 次第 (調整中)

コーディネーター 清水誠 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

大下誠一 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

演題・演者等 (予定、交渉中のものも含む。)

講演 1 「土壌の放射能汚染の実態と除染の試み」

澁澤 栄 (日本学術会議連携会員、東京農工大学大学院農学研究院教授)

講演 2 「作物の放射能汚染とその対策」未定

講演 3 「水産物のサプライチェーンの復旧・復興における問題点」

渡部終五 (日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部教授)

講演 4 「東日本から供給される食料のリスクマネジメント」

生源寺眞一 (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

講演 5 「食品の放射線量と生体影響に関する考え方」

清水誠 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

#### 6 分科会の開催 開催予定

日本学術会議主催学術フォーラム「巨大災害から生命と国土を護る」

1 主催 日本学術会議

2 日時 平成 24 年 11 月 29 日 (木) 13:00～17:00

3 場所 日本学術会議講堂

4 開催趣旨

東日本大震災を受けて、今後発生する巨大災害からわが国を護るための学術の方向と基本政策について、関連する学協会間で議論するとともに、その成果を広く国民に向けて発信し、国民との対話につなげる。

5 次第 (調整中)

13:00—14:00

司 会 : 目黒公郎 (日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

挨拶 : 大西 隆 (日本学術会議会長、東京大学大学院工学系研究科教授)

家 泰弘 (日本学術会議会員・第三部部長、東京大学物性研究所長・教授)

和田 章 (日本学術会議会員・土木工学・建築学委員会委員長、

東京工業大学名誉教授)

連続シンポジウム報告 (第 1 回—第 7 回)

依田照彦 (日本学術会議会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授)

質疑応答

14:00—17:00

総合フォーラム: 巨大災害から生命と国土を護る

コーディネーター: 米田雅子 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学特任教授)

テーマ 1: 想定される巨大災害とその対応 (仮)

パネリスト: 参加 29 学会のうちの 5 学会の会長

(休憩)

テーマ 2: 巨大災害に強いまちづくり・国土づくりの方向性 (仮)

パネリスト: 参加 29 学会のうちの 5 学会の会長

(休憩)

テーマ 3: 今後の対応に向けての学会間の連携戦略 (仮)

パネリスト: 参加 29 学会のうちの 5 学会の会長

閉会挨拶 : 未定

6 分科会の開催 開催予定

シンポジウム「第3回国際北極研究シンポジウム」  
Third International Symposium on the Arctic Research (ISAR-3)  
の開催について

1. 主 催 日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会  
北極環境研究コンソーシアム
2. 後 援 国立極地研究所(NIPR)、海洋研究開発機構 (JAMSTEC)、宇宙航空研究開発  
機構 (JAXA)、国際北極研究センター(IARC) (予定)
3. 日 時 平成25年1月14日(月)～17日(木)
4. 場 所 日本科学未来館(東京都江東区青海2-41)

5. 開催趣旨

第3回国際北極研究シンポジウムでは北極域で起こる諸現象を包括的に探求し、先端研究の最新情報を共有することで、北極域科学の総合的議論を深めることを目的とする。このシンポジウムのテーマは「北極環境変動の検知と地球温暖化への影響」で、北極域研究に携わる多くの研究者が、一同に会し、国際的な視野で最新の情報交換を行うことにより本シンポジウムが今後の北極域研究の発展に貢献することを期待している。また、開催初日は一般向け講演会とする。国内の関連各機関においては、この提案にご賛同いただき、ご協力いただけることを切に望むものである。

6. 次 第

開会挨拶：安成哲三(日本学術会議会員、名古屋大学地球水循環研究センター教授)  
(予定)

I シンポジウムの方向および概要

- (1) 北極及び亜北極気候システムの変動
- (2) 北極域の大気-海洋-陸域システムの物質循環過程
- (3) 北極域における気候変動サブシステム
- (4) 北極の地球気候変動への影響およびそのフィードバック
- (5) 北極における気候モデリング研究
- (6) 北極気候の東アジアへの影響

II 討論を活発にするために以下のセッションを用意する

- (1) 大気科学
- (2) 海洋と海氷
- (3) 水循環、永久凍土、雪氷
- (4) 氷床と氷河
- (5) 陸域生態系
- (6) 海洋生態系

(7) 包括的モデリング研究

ⅢⅡの通常セッションのほかに次のテーマの特別セッションを開催する  
特別セッション

(1) 北極の温暖化増幅

(2) 温暖化に伴う永久凍土上の陸域生態系の水・炭素循環の変化

(3) 大気および海洋との相互作用によるグリーンランド氷床変動

(4) 北極観測における国際協力

(5) GRENE 北極事業

(6) 北極環境モニタリング

閉会挨拶：杉本敦子（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院地球環境科学研究  
院教授）（予定）

Ⅳ 公開講演会「北極海は今どうなっているのか？」

一般市民の方々に、北極に起こりつつある環境変化、特に北極海の変化につ  
いて興味を持っていただき北極環境研究の現状を知ってもらう。

挨拶 齋藤誠一（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院水産科学研究院教授）  
（予定）

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

第 62 回理論応用力学講演会の開催について

1. 主 催：機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 共 催（予定）：応用物理学会、化学工学会、地盤工学会、土木学会、日本応用数理学会、日本風工学会、日本機械学会、日本気象学会、日本計算工学会、日本建築学会、日本原子力学会、日本航空宇宙学会、日本材料学会、日本地震工学会、日本数学会、日本船舶海洋工学会、日本伝熱学会、日本物理学会、日本流体力学会、日本レオロジー学会、農業農村工学会、日本計算数理工学会、自動車技術会、日本混相流学会
3. 後 援：該当なし
4. 日 時：平成 25 年 3 月 6 日（水）～8 日（金）（3 日間）
5. 場 所：東京工業大学大岡山キャンパス  
（東京都目黒区大岡山 2-12-1）
6. 分科会の開催：機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同  
IUTAM 分科会
7. 開催趣旨：  
「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある国際組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として長年開催されてきた。力学分野が細分化する中で、各々の分野の先端的研究成果に関する最新動向を共有するとともに、各分野が共通に抱える問題や将来への展望についても分野を超えて情報交換することが本講演会開催主旨である。
8. 次 第：  
開催日の最初に、日本学術会議 機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長の挨拶を行うとともに、分科会委員等学術会議会員，連携会員を中心として、力学分野の国際貢献，国内力学連合の今後，力学教育のあり方などに関するパネル討論を実施する。  
(1) 挨拶  
3 月 6 日(水) 13:00～13:15  
土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長  
岸本喜久雄（日本学術会議会員、東京工業大学大学院工学研究科教授）

第 62 回理論応用力学講演会運営委員会委員長  
廣瀬 壮一（土木学会応用力学委員会委員長）

(2) 特別講演(学協会からの推薦を受けて 2 件を選定予定)

3 月 6 日(水) 13:15～15:15

(3) パネルディスカッション

3 月 7 日(木) 14:30～17:00

「力学応用力学分野の現状と将来に関するフォーラム」(仮題)

下記委員会等メンバーを中心に企画し、課題について討論を行う。

藤井孝藏（日本学術会議連携会員、宇宙航空研究開発機構教授）

岸本喜久雄（日本学術会議会員、東京工業大学大学院工学研究科教授）

松尾亜紀子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授）

(4) 研究発表（テーマを一般公募）

3 月 6 日(水) 9:30～12:00 5 室, 研究発表 30 件

15:45～16:45 5 室, 研究発表 15 件

3 月 7 日(木) 9:30～12:00 5 室, 研究発表 30 件

3 月 8 日(金) 9:30～12:00 5 室, 研究発表 30 件

13:15～17:15 5 室, 研究発表 45 件

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

『若手研究者問題』と『情報系』  
～日本学術会議若手アカデミー委員会企画パネル討論～  
の開催について

1. 主 催 日本学術会議若手アカデミー委員会
2. 共 催 情報処理学会
3. 日 時 平成 25 年 3 月 7 日(木)10:00～12:00
4. 場 所 東北大学川内キャンパス (宮城県仙台市青葉区川内 27-1)
5. 委員会等の開催 なし

6. 開催趣旨

若手アカデミー委員会においては、2011 年 11 月の発足以来、30 歳代前後の特任連携会員ならびに連携会員が、若手研究者に関連する多様な活動を行っている。それらの活動対象のうち、いわゆる「若手研究者問題」は特に社会的関心が高く、総合科学技術会議基礎研究及び人材育成部会、同大臣・有識者会合等にも若手アカデミー委員会委員が参加している。

いわゆる「情報系」と呼ばれる研究分野においては、他分野に比して、若手研究者のおかれている状況が実際には良好なようにも思われるが、それゆえの問題点や特徴、あるいは将来への展望を共有できる可能性もある。本パネル討論では、情報系と他分野の双方から、若手研究者問題に関連する第一人者を招聘、会場も交えた積極的議論を行い、両者の未来に資することを目指す。

7. 次 第

以下のパネリスト（順不同）による各 5 分～10 分程度の背景説明および意見表明後、インターネットおよび大会参加者を対象とした事前アンケート等に基づき各論点を提示、会場の意見も積極的に取り上げ議論する。

・駒井 章治（日本学術会議特任連携会員・若手アカデミー委員会委員長、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科准教授）

・横山 広美（日本学術会議特任連携会員・日本学術会議若手アカデミー委員会委員、東京大学大学院理学系研究科准教授、総合科学技術会議 基礎研究及び人材育成

部会 委員)

- ・榎木 英介 (近畿大学医学部講師)
- ・松岡 聡 (東京工業大学学術国際情報センター教授)
- ・森本 典繁 (日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所所長、総合科学技術会議 基礎研究及び人材育成部会 委員)
- ・賀沢 秀人 (グーグル株式会社 シニア・エンジニアリング・マネージャ、災害医療 ACT 研究所 研究員)
- ・住井 英二郎 (日本学術会議特任連携会員・日本学術会議若手アカデミー委員会委員、東北大学大学院情報科学研究科准教授) (司会)

以上

## 後援を希望する国際会議の概要

会議の名称	和文：第12回アジア・オセアニア性科学学会 英文：The 12 <sup>th</sup> Asia-Oceania Congress of Sexology (略称：第12回AOCS)
開催時期	平成24年8月2日(木)～8月5日(日) 4日間
開催場所	島根県(くにびきメッセ 島根県立産業交流会館)
主催団体	第12回アジア・オセアニア性科学学会組織委員会
併催団体	日本性科学会第32回学術集会、第42回全国性教育研究大会
後援団体	内閣府、厚生労働省、文部科学省、島根県、松江市、財団法人日本性教育協会、財団法人性の健康医学財団、社団法人日本家族計画協会、日本性感感染症学会、日本性機能学会、日本思春期学会、日本泌尿器科学会、日本産婦人科学会、公益財団法人エイズ予防財団、日本アンドロロジー学会、日本女性心身医学会、日本医師会、国際協力NGO ジョイセフ等
母体団体等	和文：日本性科学連合 英文：Japan Federation of Sexology(略称：JFS)
参加予定者数 [参加予定国]	国外 160人 国内 355人 計 515人 [17カ国・地域]
会議内容	会長講演、基調講演、シンポジウム、ランチョン・セミナー、公開講座、ポスターセッション、一般演題等
会議議事録等	会期後、母体団体であるJFS加盟各団体の機関誌等において開催報告を掲載する予定
開催経費の財源	自己負担金(参加登録費等) 20,000千円 諸収入等(広告・展示等) 3,000千円 補助金・助成金等 6,000千円 寄附金等 16,000千円 計 45,000千円
[募金団体]	(窓口となる団体名) 第12回アジア・オセアニア性科学学会組織委員会
申請者	第12回アジア・オセアニア性科学学会 会長 大川 玲子
連絡責任者	同上

## 後援を希望する国際会議の概要

会議の名称	和文：第6回 霧、霧採取および露に関する国際会議 英文：6th International Conference on Fog, Fog Collection and Dew
開催時期	平成25年5月19日～5月24日（6日間）
開催場所	神奈川県（横浜赤レンガ倉庫1号館）
主催団体	第6回 霧、霧採取および露に関する国際会議組織委員会
共催団体	なし
後援団体	日本学術会議（希望）、環境省、神奈川県、横浜市、大気環境学会、気象学会等に申請予定
母体団体等	霧、霧採取および露に関する科学委員会 FogQuest
参加予定者数 [参加予定国]	国外 118人 国内 32人 計 150人 [ 35 カ国]
会議内容	基調講演、口演研究発表、ポスター発表等
会議議事録等	学会開催の概要について事後報告する予定
開催経費の財源	会議登録料 6,180 千円 助成金・寄付金 7,160 千円 その他 1,200 千円 計 14,540 千円
[募金団体]	第6回 霧、霧採取および露に関する国際会議組織委員会
申請者	第6回 霧、霧採取および露に関する国際会議組織委員会 委員長 井川 学（神奈川大学工学部・教授）
連絡責任者	同上